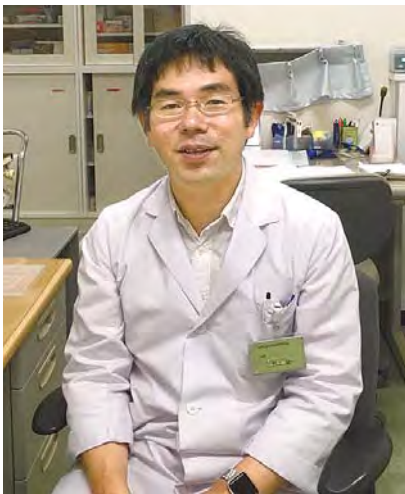


やりたいことをやらせてくれた



「患者さんに興味を持ち、理解しようとするのが一番大切」という村上純一さん

生徒たちが集まっていた。「ほくほくは思わないけど……」と声に出すことができた。自分を肯定することができ、とても居心地が良かった。

高校3年生の時、人を根源的に知ることができ、仕事に就きたいと、医学の道を志した。数学が苦手で、先生に止められながら、その悔しさがバネになり、必死で頑張った。

そのかいあって、滋賀医科大学の医学部に合格。「人はどこから来て、どこに向かうのか」を問

い続けようと、精神科医の道に進んだ。朝起きることができない子どもたちを助けようと、診察を続けている。「経験を積みれば積むほど、人に優し

くなる仕事です」
金沢大学理工研究域自然システム学系の准教授、山田敏弘さん(41、94年卒)は、生き物の進化に関わった遺伝子を調



「大きい、きれい、珍しい」がそろった化石を見つけると感激します」と話す山田敏弘さん

べている。

5歳ごろから化石掘りに熱中。一つ見つけたと、また見つけたくなると、また見つけたくなると。「大きい、きれい、珍しい」の3要素がそろった化石を見つげるため、全国を掘って回った。中学生の時、熊本県で白亜紀(1億4500万年〜6600万年前)の有胎盤類の下あごの化石を発見し、新聞に取り上げられたこともあった。家の納屋は自分の化石部屋だった。

化石に打ちこむことを、東海は決して止めなかった。むしろ自由にやりたいことをやらせてくれた。虫も貝も食べてみる生物の先生は「俺もバツタが大好きだ」と応援してくれた。

貝の化石を研究しようと、京都大学理学部に進学。研究するうちに、植物の化石に魅力を感じるようになり、東京大学理学系研究科の博士課程に進んだ。

修了後は東京・上野の国立科学博物館に勤務。子どもたちに化石について教えたり、いっしょに化石を掘りに行ったりした。2006年から金沢大学に移り、生き物の形がどうやってできるのかを遺伝子レベルで研究している。「これ、こういうのが見つかったら、突き詰めてみるの面白い人生です」(浴野朝香)